

J-1

小田原漁港周辺における現代版小田原宿の提案 Proposal of modern version Odawarajuku around Odawara fishing port

佐藤信治¹, ○佐藤駿介²Shinji Sato¹, *Shunsuke Sato²

Odawara, which is located in the western part of Kanagawa Prefecture, once developed as a castle town with the Odawara-juku, which is the 9th lodging from Edo Nihonbashi and the 45th lodging from Sanjo Ohashi, Kyoto. Many people visited and stayed at this Odawara. There were about 90 lodging stations, and it was prosperous and proud of the size of the Tokaido with 4 headquarters and 4 Wakihonjin. With it, souvenirs and essentials for travel Shops selling are lined up around the post, and you can see kamaboko, umeboshi, uiro, etc.

The tradition that has been passed down since the Edo period still remains.

However, although tourism resources such as the sea, mountains, and livelihood of villages remain, the town is declining due to aging and population decline, and the connection between tourism and the region is becoming weak. However, as it is, I feel that there may be nothing left in this Odawara due to the decline of tourism due to the corona vortex and the dilution of connections. I think that it is now required to connect to generations.

The site of this time, Hayakawa-cho, Odawara City, is the Odawara Fishing Port, where fish used for kamaboko and dried fish are landed. Although the town is crowded with tourists on holidays, the town's decline has led to connections with the region. The situation is diluting, and we think that we can solve the problem and regenerate it by proposing a building that listens to what Odawara used to be.

1. はじめに

神奈川県西部に位置する小田原はかつて江戸日本橋から9宿目、京都三条大橋から45宿目の宿場「小田原宿」のある城下町として発展した。東海道一の難所である箱根越えが控えていたため、多くの人々が訪れ、この小田原に宿泊した。宿場は90軒前後が連ね、本陣4軒、脇本陣4軒と東海道随一の規模を誇り、栄えていた。それに伴い、土産や旅の必需品を売る商店が宿場を中心に軒を連ね、蒲鉾や梅干し、ういろうなどが知れ渡り、現在も江戸時代から引き継がれた伝統が残っている。



Figure 1. Odawarajuku^{*1}

しかし、海・山・里の生業などの観光資源は残っているものの、高齢化・人口減少によって町が衰退し、観光と地域の繋がりが希薄になっている。ある程度の観光客が小田原を訪れているものの、このままではコロナ渦による観光の衰退や、繋がりの希薄化によってこの小田原には何も残らないのではないかという危機感を感じている。消えようとしている小田原らしさを守り、次の世代に繋ぐことが今求められていると考える。

今回の敷地である小田原市早川町には蒲鉾や干物で用いられる魚が水揚げされる小田原漁港がある。休日は観光客で賑わっているものの、町の衰退に伴って、地域と観光の繋がりが希薄化しているのが現状である。かつての小田原の姿に耳を傾けた建築を提案することで問題を解決し、再生できると考える。

2. 計画背景

2.1 消えそうな小田原らしさ

地名や伝統、海・山・里の生業は残っているものの、建築として小田原らしさを語っているものは残り少ない。また、漁港と町の繋がりは希薄化を辿り、小田原の良さを伝えきれていない。コロナ渦で観光が衰退し、高齢化で今後人々がいなくなり、町と観光との繋がりが

1 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

2 : 日大理工・学生・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University

なくなってからでは手遅れであると考える。

2.2 深刻な人口減少・高齢化問題

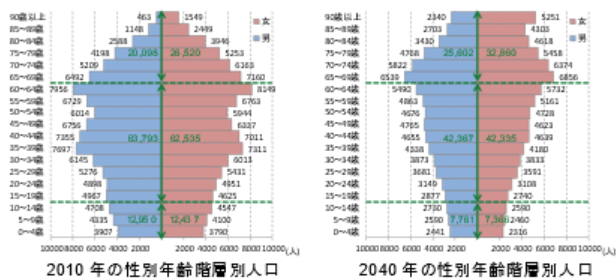


Figure 2. Changes in population by age group^{*2}

現在日本では多くの地域で高齢化が進んでおり、小田原市も例外ではない。現在は高齢化という現状ではあるが、2040年までに大幅な人口減少が予測され、地域と観光のつながりの希薄化に拍車がかかり、このままでは町に人がいなくなることが危惧される。

2.3 漁港の老朽化

昭和40年代に完成した小田原漁港も現在は柱や屋根に錆が目立ち、漁港内の設備も古いものばかりで、老朽化が進行している。地域と観光の繋がりを再生するためにも漁港を中心とした、町全体への提案が求められている。

2.4 不十分な津波対策

現在、小田原漁港周辺では防波堤や護岸整備に力を入れているが、災害によって津波が来たときに安全とは言えないのが自然の恐ろしさである。防波堤の整備をするだけでなく、早川町にある建築そのものにも対策を施し、災害時以外では地域と観光との繋がりを促進するものが必要とされている。

3. 計画敷地



Figure 3. Planned area^{*3}

3.1 小田原漁港の歴史

小田原の漁業は現在の本町、浜町に「船方村」と呼ばれる漁村が起こったことがその発祥とされている。その後1601年に小田原宿が成立し、町人町には土産屋、食事屋、雑貨屋、衣料屋、魚屋などを生業とする商人の家が建ち並び、早川町で獲れた多くの魚が消費されていた。

明治時代に株式会社小田原魚市場が創業し、昭和40年代に本港が完成した。現在は防波堤や、護岸の整備に力をいれている。

3.2 早川町の現状

町の衰退により地域と観光の繋がりが希薄となり、漁港から日本で一番近いJRの駅があるにも関わらず、全く連携を取っていないのが現状である。

4. 基本計画

4.1 高架し、宿場を散りばめる

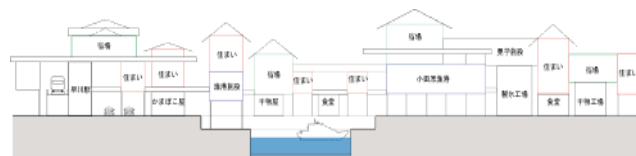


Figure 4. Proposed schematic diagram

高齢化・人口減少によって町が衰退し、地域と観光の繋がりが希薄化を辿っている現状に対して、かつての小田原宿を小田原漁港で再興する。建築を高架しつつ、漁港×宿場町×住まいの機能を実現することで横のつながりを作り出し、地域と観光の繋がりを取り戻す。それぞれの宿場に異なった小田原らしさが現れる建築にすることで、小田原らしさを守り、継承する。

4.2 高架下空間の利用

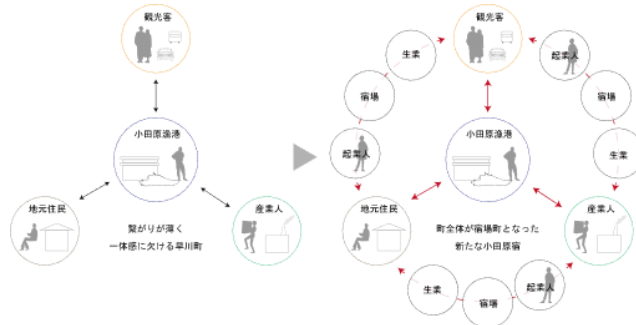


Figure 5. Change in relationship due to proposal

地震時には津波の力を受け流すが、普段の空間の使われ方としてはインフラ面だけでなく、仮設的な空間を提供する。そこに簡易的な商店、市場、イベントスペースなどの機能を展開する。また、小田原は都心からのアクセスが良く、賃料が安いことから、毎年100人ほどが起業している。起業を考えている人も提案に絡めることで小田原の再生につながると考える。

5. 参考文献

[1]国土交通省「宿場について」
https://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/tokaido/02_tokaido/04_qa/index2/a0210.htm
 [2]神奈川県「小田原の漁業と漁港整備の歴史」
<https://www.pref.kanagawa.jp/cnt/p367044.html>
 [3] <https://www.google.com/>